

モロッコ : アフリカ最大の風力ファームが稼働開始¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット

新エネルギーグループ

昨年 12 月、アフリカ最大のタルファヤ風力ファーム (300MW) がフル稼働を開始した²。本風力ファーム開発事業はモロッコ国営電力・水道公社 (ONEE)³との BOOT⁴契約に基づき、フランスの GDF SUEZ 社 とモロッコの Nareva 社によって進められている。2013 年 1 月に建設を開始し、2014 年 6 月から段階的にコミショニングを進めていたが、今般総ての作業が終了しフル稼働に至った。建設コストは 4 億 5 千万ユーロ。発電電力は 20 年の供給契約に基づき、ONEE に供給される。

モロッコはエネルギー消費量の約 97%を輸入に依存しているため、エネルギー安全保障の強化をエネルギー政策の中心に据え、エネルギー源の多様化、再生可能エネルギーの開発に注力している。再エネ開発推進のため 2010 年、太陽光 (2019 年、2 GW)、および風力発電 (2020 年、2 GW) の導入目標量を設定し、同時に、再エネ発電とその販売を自由化し、それによって再エネ発電分野への民間投資を促進することを目的とした再生可能エネルギー法令⁵を策定した。

2010 年時点の風力発電導入量は約 280MW に留まり、その内、200MW は ONEE によって開発された風力ファームであったが⁶、2012-2013 年、民間投資促進策を背景として Nareva 社によって 3 つの風力ファーム⁷ (200MW) が開発され、操業を開始している。今般フル稼働を開始したタルファヤ風力ファームは、今までの風力ファームと比べて規模が大きく外国企業の参入を得て成功裏に事業が進展している。

タルファヤ以外にも風力ファームの建設計画が ONEE によって検討され、5 つの風力ファーム⁸ (総容量 850MW) 建設計画が纏まっている。2014 年 3 月、これらの風力ファームを

¹本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業 (海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² <http://www.gdfsuez.com/wp-content/uploads/2014/12/pr-gdf-suez-tarfaya.pdf> 参照

³ Office National de l'Electricite et de l'Eau Potable (ONEE)

⁴ BOOT (Build-Own-Operate-Transfer) は官民が協調して社会資本整備事業を実施する形態の一つで、民間事業主体が資金調達を行って施設を建設し (Build)、所有し (Own)、操業する (Operate)。事業終了後は、施設の所有権を官に移転する (Transfer)。

⁵ 再生可能エネルギー法令 13-09 (Energies Renouvelables)

⁶ Amogdoul 風力ファーム (60MW)、Tangier 1 風力ファーム (140MW)

⁷ Akhfenir 風力ファーム (102MW)、Laayoune 風力ファーム (50MW)、Haouma 風力ファーム (50MW)

⁸ Tanjier 2 (100MW)、Essaouira (200MW)、Midelt (150MW)、Tiskrad (300MW)、Boujdour (100MW)

開発する事業者を選定するテンダーが開始され、同年 9 月、応札が締め切られた。応札者は Assiona、EDF/Alstom/QWEC⁹/FIPAR、ACWA Power¹⁰/Gamesa、Nareva/ENEL Green Power/Siemens、GDF Suez/Vestas であった。開発はタルファヤ風力ファームと同様、BOOT 契約に基づいて進められ 2020 年までの完成を目指している。

モロッコの風力発電導入量は既に約 600MW に達し、2020 年には約 1,500MW に到達する見込みとなった。しかしながら、風力発電導入目標（2020 年、2 GW）の達成には更なる努力が必要である。また、モロッコの風力発電関連産業の育成も大きな課題となっており、今後の取り組みが注目される。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

⁹ Qatar Water & Electricity Company

¹⁰ ACWA Power (サウジアラビア)